

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム メルシー長橋(いわてさん)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	039010003		
法人名	有限会社メルシー		
事業所名	グループホームメルシー(いわてさん)		
所在地	盛岡市長橋町5-15		
自己評価作成日	平成 28年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100063-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 3月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域の自治会や防災組織に加入し、防災訓練参加や回覧版を通じての情報発信・受信による交流もあり地域つき合いは一般民家同様日常的に行われている。理念である「その人らしい生活」の尊重と、職員もまた共に生活する場であるという考えの下に支援をしており、利用者のペースを大切にすることで、介助が必要であった利用者が一人歩行が可能となり食欲の改善にもつながっている。医師・看護師の連携による看取りの方針は確立し、重度化・終末期支援は職員のスキルを更に向上させることにより安心できる体制となっている。運営推進会議はメンバーも多彩で話し合いが活発になされアイデア・提案も多く、地域の高齢者介護の情報発信拠点としての役割を果たしており地域から期待されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム メルシー長橋(いわてさん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しみながら、一人一人のその人らしさを大切に」を理念に掲げ、毎朝朝礼で、唱和し、確認しています。	朝礼で理念を唱和・確認して振り返りながら日々支援している。職員は利用者といっしょに座ってお茶を飲む時間を大切に、利用者の穏やかな笑みが見られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の公園に出掛けたり、スーパーへ買い物へ行くなど、交流を図っています。	町内会の一員として加入し、介護・健康一言メモを加えた「広報メルちゃんだより」の回覧を依頼し情報発信している。ホームの夏祭り、散歩での触れ合い、保育園児の訪問、地区の盆踊り参加などで交流しており地域防災組織にも加入している。	運営推進会議で縁側交流的場の中心的役割も期待したいとの提案を受け前向きに取り組む姿勢にある。地域交流は積極的に行われているが住民が散歩途中にもふらっと立ち寄り”憩いながらよもやま話”ができるような工夫を更に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等の際に参加して頂き、利用者とはふれ合い、ホーム内を見てもらい、理解を深めてもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営、活動状況の報告を行い、参加者から、質疑応答、要望を受け、サービス向上に活かすようにしています。	2行政区の自治会長・保健推進委員・保育園長・隣人と多彩なメンバーで構成され活発な意見交換がなされている。ホーム近隣の街路樹の管理を依頼したり、防災マップの作成や地域防災訓練への参加などの意見があるなど忌憚のない話し合いが出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の会議録、メルちゃんだよりを市町村へ提出しています。	市の担当課とは広報を持参しホームの状況を伝えたり、認定更新やマイナンバー制度の手続き等で連携を図っている。また生活保護担当者が訪問したり事務手続きを電話連絡する等協力体制は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	外部研修参加者の報告や職員会議で、マニュアルや資料を参考に全員で勉強をしている。転倒不安の利用者は目配り心配りを、車いすで自力移動できる利用者は意思確認のうえで移乗介助をしている。特に命令的言葉遣いは使わないように留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、ホーム内での勉強会を開き、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加、資料を会議等で話し合い、日々の介護に活かしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を読み上げ、質問や疑問点を確認しながら、理解してもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施して、意見・要望を収集し、会議等で改善に向けての取り組み、結果報告を掲示、お便り等で報告し、運営に反映させています。	利用者は日々の支援で、家族からは面会や電話等の機会に聴くとともに、毎年アンケートを実施してその内容はミーティングや運営推進会議に報告し検討している。日課にリハビリ的手作業をとの提言があり筆記や手仕事を取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、自己評価、職員会議を行い、意見を聞き、反映させています。	管理者はミーティングや毎月の会議で意見・提言を聴くとともに職員の自己評価結果を基に年2回個々に面接を行っている。職員の休憩時間確保や調理器具・機材を購入し調理作業環境の改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を元に、各自のやりがい、目標を把握し、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議・研修の機会を与え、働きながらスキルアップできるよう、努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修の実習生を受け入れ、相互施設の意見交換を行い、サービスの質の向上させるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み、入所前に本人の状態、環境を把握し、意向の確認をし、安心確保に向けた関係づくりを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通して、意向、要望、不安を確認し、スタッフ間で情報を共有し、不安感の軽減を図り、スムーズな入居となるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービスの利用も含めた対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを大切にし、自立を促しながら、共に生活する関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子を伝え、家族の理解、協力を頂きながら、日頃の支援に活かしています。利用者を家族と共に支えていく関係が築かれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が気軽に立ち寄れるよう働きかけ、馴染みの人との関係が途切れないよう努めています。	時間に制限を設けず夜間でもペット同伴でも面会者の都合で気軽に立ち寄れるようにしている。利用者の希望で友達にお誘いの電話をしたりお墓参りの希望を家族に伝えることもあり、家族と外出・外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の利用者同士の関係性を把握、留意し座席の配置の工夫をしたり、本人の意向を尊重し、孤立を防ぎ、寄り添う支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、病院に関わらず、本人の様子を伺い訪ねることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握に努め、本人の意志を尊重するようにしています。意向確認が困難な方には、生活パターンを探りながら対応するようにしています。	日々の会話や利用者の表情等から思いを汲み取っている。生け花、プランター花植えの希望や、自分で洗濯したい方には小物の洗濯物干しポールを個室もうけるなどそれぞれの思いが実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報をもとに、背景を探り馴染みの暮らしや、生活歴を知る事で支援が円滑に行われるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り、気づきノートの活用など情報交換をし、心身状態、現状の把握、有する能力や楽しみが増えていよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き、現状の把握、情報交換により、現状に即した介護計画を作成するよう努めています。	職員の居室担当制を敷き、計画の素案を基に担当職員を交えてカンファレンス、モニタリングを重ね作成している。特に利用者の状態が変わる都度、家族との話し合いや利用者の思いを組み込むことも大切している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録をもとに、利用者や家族状況、ニーズ、サービス提供がズレていないか等申し送り、実践へ反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応し、ボランティア、リハビリ、外出等、看取りも含め柔軟に対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	SO Sの情報を作成、警察署に情報を提供、依頼しています。地域の防災訓練等にも参加し、地域の協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医、かかりつけ医、専門医と情報提供を密にし、早めの対応ができるよう努めています。	専門医やかかりつけ医の受診は家族対応としており「受診ノート」にて適切な医療に結びつくよう情報を交換している。月1回の往診がある協力医では特に変化がない場合は電話や面会時に家族に情報を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護依頼、情報を伝え、体調管理、適宜処置や医師との相談も行って頂き、24時間体制で対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化に不安や混乱が生じないように、できるだけ面会に行き、病院関係者と情報交換を行い、早期退院に繋げています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、医療連携、終末期の対応についての説明を行い、状態変化が見られた場合、その都度家族と話し合い、意向確認、医師からの状態説明で連携した支援を行っています。	終末期や看取りについて契約時に説明し方針を共有している。利用者の状態変化に応じ医師の指示のもとに家族に説明し意向を再確認、計画の見直しをしている。職員に対しては、勉強を重ねながら方針の共有に向け強化を図り支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、救命蘇生講習の受講し、施設内研修で定期的に確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署と連携し町内会役員にも参加して頂き、避難訓練を行っています。	自治会の防災組織に加入して地域の防災訓練にも参加し地域との協力体制は築かれている。ホーム独自でも年2回、町内会役員の参加を得て消防署の指導の下に避難訓練を行い、非常用品の備蓄も用意している。	2階からの非常避難路は階段であり、利用者のADLが低下してきていることから安全に誘導できるか心配な面もあることから、今後も安全な避難方法の検討を重ねて行くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格を尊重した言葉かけや、対応を心がけています。	方言も交えながらやさしい言葉づかいで接しており、利用者の笑顔が見られるような支援に努めている。特に入浴・排泄・着替え時の羞恥心への配慮、生活歴からの誇りを傷つけないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが出せる環境をつくり、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意向に沿った支援が優先となるよう、一人ひとりのペースに合わせ、柔軟な対応を心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んだり、好みのヘアスタイルを尊重し、自分らしい生活ができるよう環境を整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が台所に立ち食事作りや、片付けをしています。それぞれできることを行って頂くようになっていきます。	各ユニット毎に当日の担当職員が前日の献立や材料を確認し、利用者の嗜好や嚥下状態に配慮しながら準備している。買い出し同行、皮むき、配膳は声がけし利用者の自主性を尊重しながら共に行っている。時節にはバイキング形式、お寿司、お弁当を行事食に取り入れて楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月2回の体重測定 食事量、水分量の記載、体重変化、状態変化に注意し脱水、誤嚥に気をつけ、バランスよい食事に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは自立を促し、その方に合わせた仕上げ磨きを介助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パンツ、パットの使い分けでオムツの使用を減らしたり、トイレでの排泄により自立にむけた支援をしています。	日中はトイレ使用を基本としており、夏には布パンツの使用者増を目指している。重度化により夜間はオムツ使用者も数人いるが昼夜ともパンツに改善した利用者もいるなど、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、乳製品の摂取や軽体操、歩行運動等取り入れています。薬に頼らざるを得ない現状です。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせた支援、自分のペースで入浴できるよう工夫等、柔軟に対応しています。	週2回の入浴としているが、利用者の希望も踏まえながら、柔軟な対応を行っている。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しむほか、気の合う人と入浴をする人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳に布団を敷いて休む等、その人なりの生活習慣を大切に、安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はホーム管理を行い、服薬確認の徹底、薬の変更時は、送り、作用の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体力、体調に合わせ、できることを大切に、楽しく過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事、買い物、散歩、ドライブ等外出支援を行っています。	日頃は園庭内ベンチでの日光浴、時には車椅子利用者もボランティアの方と共に近隣公園までの散歩を楽しんだり地域の行事(文化祭等)に出かけている。四季折々には小岩井農場や高松の池方面にお花見や車窓から風景が眺められるようにドライブを兼ねながら外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金は所持しないが、持っていないことで不安になる方には、小銭を財布に入れて持つこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人からの手紙が届いた際は、返信を代筆したり、電話も適宜かけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節の飾りつけをしたり、家族の写真を貼ったりと、居心地良い環境作りを行っています。	居間兼食堂からは、調理をする職員の顔が正面から見え、台所の周りを居室が囲んでいる。トイレ、洗面所、風呂場は明るくゆったりしており、要所所には写真や鉢花が飾られ、ソファも配置されゆったりと休めるようにしている。リビングのテーブルは椅子対応の「こたつ」でほっとできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺の席で外を眺めたり、気の合う利用者同士でホール内を歩いたり、お茶やお話しを楽しむ等その人に合った場所でくつろいでいられるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、寝具、家族の写真等を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしています。	利用者はそれぞれにベッドや畳を利用している。使い慣れた座布団やテーブル、鏡台、位牌、物干しなどが持ち込まれており、また家族から四季折々のメッセージなどもあり、居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、エレベーター、スロープの設置場所がわかるように貼り紙するなど、安全や自立に配慮しています。		